



BOM for Windows Ver.8.0

HTTPS 送受信

ユーザーズマニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

商標

本ユーザズマニュアルに記載されている「BOM」はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。また、本文中の社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

なお、本文および図表中では、「TM」（Trademark）、「(R)」（Registered Trademark）は明記しておりません。

目次

本書について

- 製品表記
- 使用方法
- 環境説明

第1章 HTTPS 送受信機能とは

第2章 システム要件

1. HTTPS 受信サーバー動作環境
 - (1) サポート OS
 - (2) ハードウェア
 - (3) アプリケーション
2. HTTPS 送信クライアント動作環境
 - (1) ハードウェア、サポート OS
 - (2) アプリケーション

第3章 制限事項

1. BOM 8.0の設定に関する禁則文字
2. 送信対象のフォルダーに保存される、ファイル名に関する禁則文字

第4章 HTTPS受信サーバーの事前準備

1. BOM 8.0のインストール
2. IISとASP.NETモジュールの追加
3. ASP.NET Core / .NET Coreのインストール
4. 必要なファイルの準備

第5章 HTTPS送信クライアントの事前準備

1. BOM 8.0のインストール
2. 必要なファイルの準備
 - (1) BOM アーカイブデータを送信する場合
 - (2) ファイル送信を行う場合
 - (3) 「HTTPS送信」アクションを使用する場合
 - (4) HTTPS 送信の失敗時にリトライを実行する場合
3. プロキシサーバーを経由する場合
 - (1) 対応するプロキシサーバーについて
 - (2) プロキシサーバーアドレスの設定
 - (3) プロキシサーバーの認証設定

第6章 HTTPS 受信サーバーの設定

1. IISの設定
 - (1) 事前設定
 - (2) アプリケーションプールの作成
 - (3) Webサイトの作成
 - (4) アプリケーションの追加
2. BOM アーカイブ設定
3. メール転送設定

第7章 HTTPS 送信クライアントの設定

1. API トークンの取得と設定ファイルの登録
 - (1) admin ユーザーのパスワード変更方法
2. BOMアーカイブデータの送信設定
3. ファイル送信の設定
4. 「HTTPS送信」アクションの設定

本書について

製品表記

本書では、以下の製品について略称を使用しています。

正式名称	本マニュアルでの呼称、略称
BOM for Windows Ver.8.0 SR1	BOM 8.0
Microsoft Internet Information Services	IIS
BOM 8.0 監視サービス	監視サービス
BOM 8.0 マネージャー	BOM マネージャー
BOM 8.0 アーカイブサービス	BOM アーカイブサービス

使用方法

本書には、BOM 8.0 の「HTTPS送信アクション」を使用して HTTPS 送受信機能を利用するために必要な、詳細な情報と利用手順が記載されています。

- BOM 8.0のインストールに関しては'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'を参照してください。本書の内容は、インストールが正常終了したことを前提として記述しています。
- 本書のご使用にあたっては、Microsoft Windows オペレーティングシステムおよび、IISについての実際的な知識、BOM 8.0 の基本的な知識が必要です。
- 本書では「HTTPS 送信アクション」によって送信されたファイルや通知を受け取る「HTTPS 受信サーバー」に必要な、IIS および ASP.NET Core / .NET Core のインストール方法は記載していません。これらのインストールについては、マイクロソフト社の提供する情報を参照してください。
- 本書には外部のウェブサイトへの URL が記載されている場合があります。
PDF 形式のユーザーズマニュアルでは使用する PDF リーダーによってこの URL が自動的にリンク化される場合がありますが、URL に改行が含まれていると正しいリンク先に遷移できません。このような場合は URL をコピーし、ブラウザに貼り付けて表示してください。
- 本書に更新・訂正などが生じた際は、弊社ウェブサイト上で情報を公開しますので、あわせて参照してください。

環境説明

- 本書では、コンピューターの操作画面として、主にWindows Server 2016 および Windows Server 2019で取得した画像を使用しています。お使いの OS によって表示内容が若干異なる場合がありますが、適宜読み替えてください。
- 本書では"ProgramData"フォルダーがCドライブ直下に存在することを前提としています。何らかの理由で移動させている場合は、現況に合わせて読み替えてください。

第1章 HTTPS 送受信機能とは

HTTPS 送受信機能とは、BOM 8.0 の監視項目と連携し、対象の監視項目に設定された閾値による起動条件が満たされた際に実行される「HTTPS 送信アクション」を使用することで、指定された HTTPS 受信サーバーに対して、HTTPS プロトコルを使用してファイルや通知の送信、BOM アーカイブデータベースへのアーカイブデータの送信を行える機能です。

この機能において、BOM 8.0 が動作し、監視および「HTTPS 送信アクション」を実行する環境は「HTTPS 送信クライアント」、送信されたファイルや通知を受け取る環境は「HTTPS 受信サーバー」と称します。

第2章 システム要件

1. HTTPS 受信サーバー動作環境

(1) サポート OS

OS の動作要件は、BOM 8.0 の動作要件に準じます。ただし、クライアント OSは対象外です。

詳細については 'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' および、各種 BOM 8.0 オプション製品のマニュアルを参照してください。

(2) ハードウェア

ハードウェア動作要件は、OS および IIS、.NET Core、BOM 8.0 の動作要件に準じます。ただし受信したファイルと同サーバー上に保存する場合は、そのファイル容量に応じた記憶領域が必要です。

(3) アプリケーション

HTTPS 受信サーバーを利用する際は、以下のアプリケーションが必要です。

- BOM 8.0
監視サービスおよび、BOM コントロールパネル、BOM マネージャーは必須コンポーネントです。
BOM 8.0のインストールについては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。
- IIS
- ASP.NET Core / .NET Core
IIS および、ASP.NET Core / .NET Core のインストールについては、HTTPS 通信に必要な証明書の配置等を含めて、マイクロソフト社の提供する情報を参照してください。

本書では以下のウェブサイトでマイクロソフト社が提供する、ASP.NET Core Runtime 6.0.3 の Windows 用 Hosting Bundle を使用しています。

- Download .NET Core 6 （2025年3月現在）
<https://dotnet.microsoft.com/en-us/download/dotnet/6.0>

2. HTTPS 送信クライアント動作環境

(1) ハードウェア、サポート OS

ハードウェアおよび OS の動作要件は、BOM 8.0 の動作要件に準じます。詳細については 'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' および、各種 BOM 8.0 オプション製品のマニュアルを参照してください。

(2) アプリケーション

HTTPS送信クライアントを利用する際は、以下のアプリケーションが必要です。

- BOM 8.0

監視サービスおよび、BOM コントロールパネル、BOM マネージャーのインストールが必要です。また、BOM アーカイブデータを送信する場合は、BOM アーカイブサービスを追加でインストールしてください。

BOM 8.0のインストールについては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。

第3章 制限事項

カスタムアクション設定画面および、送信対象のフォルダー名、ファイル名において使用できない文字（禁則文字）の情報を以下にまとめます。

- カスタムアクション設定画面は、本書における以下の手順が該当します。
 - '[BOM アーカイブデータの送信設定](#)' の「手順 12」
 - '[ファイル送信の設定](#)' の「手順 9」
 - '[「HTTPS 送信」アクションの設定](#)' の「手順 7」
 - '[HTTPS 送信失敗時のリトライ設定](#)' の「手順 15」

1. BOM 8.0の設定に関する禁則文字

該当する設定	該当フィールド（※1）	条件	禁則文字
「BOM アーカイブデータの送信設定」 「ファイル送信の設定」 「HTTPS 送信失敗時のリトライ設定」	すべてのフィールド	すべての場合	すべての環境依存文字
		文字列の末尾 「本文」フィールド、「添付ファイル」フィールドでは、各行の末尾にも使用できません。	「¥」（半角円記号、バックスラッシュも含む）
	件名 フォルダー設定	すべての場合	「"」 「>」 「<」 「 」 「&」 「^」
「「HTTPS 送信」アクションの設定」	添付ファイル	すべての場合	「,」
		行頭および行末で囲む場合	「"」（※2）

※1 「該当フィールド」にあげたフィールドが、各「該当する設定」において存在しない場合があります。

※2 文字列に空白のあるパスは、ダブルクォーテーションで囲まず、1行で記載することで添付対象として設定できます。

2. 送信対象のフォルダーに保存される、ファイル名に関する禁則文字

該当する機能	条件	禁則文字
「BOM アーカイブデータの送信設定」 「ファイル送信の設定」 「HTTPS 送信失敗時のリトライ設定」	ファイル名の先頭	「'」
	右記禁則文字を組み合わせて使用した場合	「'」 「;」
「BOM アーカイブデータの送信設定」 「ファイル送信の設定」	ファイル名すべて	「%」 「,」 「;」 すべての環境依存文字
「HTTPS 送信失敗時のリトライ設定」	ファイル名すべて	「%」 「,」 すべての環境依存文字

第4章 HTTPS受信サーバーの事前準備

HTTPS受信サーバーの設定を行う際は、以下の事前準備が必要です。

- IISの追加
- ASP.NET Core / .NET Coreのインストール
- 必要なファイルの準備

また、作業にあたっては管理者権限が必要です。本設定を行う際は管理者権限を持つアカウントでログオンしてください。

1. BOM 8.0のインストール

監視サービスおよび、BOM コントロールパネル、BOM マネージャーのインストールが必要です。

BOM 8.0 のインストールについては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。

2. IISとASP.NETモジュールの追加

IIS と ASP.NET モジュールの追加方法、HTTPS 通信に必要な証明書の設定については、マイクロソフト社の提供する情報などを参照してください。

- (参考情報) 構成手順 1: IIS と ASP.NET モジュールをインストールする | Microsoft Learn (2025年3月現在)
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/iis/application-frameworks/scenario-build-an-aspnet-website-on-iis/configuring-step-1-install-iis-and-asp-net-modules>

3. ASP.NET Core / .NET Coreのインストール

ASP.NET Core / .NET Coreのインストール方法については、マイクロソフト社の提供する情報などを参照してください。

本書では以下のウェブサイトマイクロソフト社が提供する、ASP.NET Core Runtime 6.0.3 の Windows 用 Hosting Bundle を使用しています。

- Download .NET Core 6 (2025年3月現在)
<https://dotnet.microsoft.com/en-us/download/dotnet/6.0>

4. 必要なファイルの準備

HTTPS 受信サーバーで必要なファイルは、BOM 8.0 インストールパッケージの以下の場所に格納されています。

[BOM インストールパッケージ]¥TOOLS¥HTTPS送受信¥受信サーバー

HTTPS受信サーバーを設定する際は、上記フォルダーに格納されたファイルが利用できる状態で実施してください。

第5章 HTTPS送信クライアントの事前準備

BOM 8.0 が動作する環境を HTTPS 送信クライアントとして使用するため、必要なファイルの事前準備が必要です。

また、作業にあたっては管理者権限が必要です。本設定を行う際は管理者権限を持つアカウントでログオンしてください。

1. BOM 8.0のインストール

監視サービスおよび、BOM コントロールパネル、BOM マネージャーのインストールが必要です。また、BOM アーカイブデータを送信する場合は、BOM アーカイブサービスを追加でインストールしてください。

BOM 8.0 のインストールについては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。

2. 必要なファイルの準備

(1) BOM アーカイブデータを送信する場合

HTTPS 送信クライアントの設定を行う際、BOM 8.0 のインストールパッケージで以下の場所に格納された cab ファイルが使用できる状態にしてください。

```
[BOM インストールパッケージ]¥TOOLS¥HTTPS送受信¥送信クライアント¥アーカイブ送信(HTTPS).cab
```

(2) ファイル送信を行う場合

HTTPS 送信クライアントの設定を行う際に、BOM 8.0 のインストールパッケージで以下の場所に格納された cab ファイルが使用できる状態にしてください。

```
[BOM インストールパッケージ]¥TOOLS¥HTTPS送受信¥送信クライアント¥ファイル添付送信(HTTPS).cab
```

(3) 「HTTPS送信」アクションを使用する場合

「HTTPS送信」アクションは、BOM 8.0 標準の機能です。別途準備するファイルはありません。

(4) HTTPS 送信の失敗時にリトライを実行する場合

HTTPS 送信クライアントの設定を行う際、BOM 8.0 のインストールパッケージで以下の場所に格納された cab ファイルが使用できる状態にしてください。

```
[BOM インストールパッケージ]¥TOOLS¥HTTPS送受信¥送信クライアント¥HTTPS再送.cab
```

3. プロキシサーバーを経由する場合

プロキシサーバーを経由して HTTPS 受信サーバーへ HTTPS 送信を行う場合、以下のファイルにプロキシサーバーの設定を記述する必要があります。

対象のファイル：

```
C:¥ProgramData¥SAY Technologies¥BOMW8¥Environment¥Config¥Https.ini
```

(1) 対応するプロキシサーバーについて

確認済みのプロキシサーバー	Squid (※)
対応する認証方式	基本認証、NTLM 認証

※ その他のプロキシサーバーについては、疎通に問題がないことを事前に確認してください。

(2) プロキシサーバーアドレスの設定

パラメーター名	設定値
ProxyServerAddr=	既定値はありません。 プロキシサーバーのURLまたはIPアドレスを記述します。
ProxyServerPort=	既定値はありません。 プロキシサーバーのポート番号を記述します。

(3) プロキシサーバーの認証設定

パラメーター名	設定値
ProxyServerUser=	既定値はありません。 プロキシサーバーの認証ユーザー名を記述します。
ProxyServerPassword=	既定値はありません。 プロキシサーバーの認証パスワードを記述します。
UseWinInet=	既定値 "FALSE" NTLM 認証を使用する場合のみ、"TRUE" に変更します。

第6章 HTTPS 受信サーバーの設定

以降の作業は、HTTPS 受信サーバーにするコンピュータ上で実行してください。

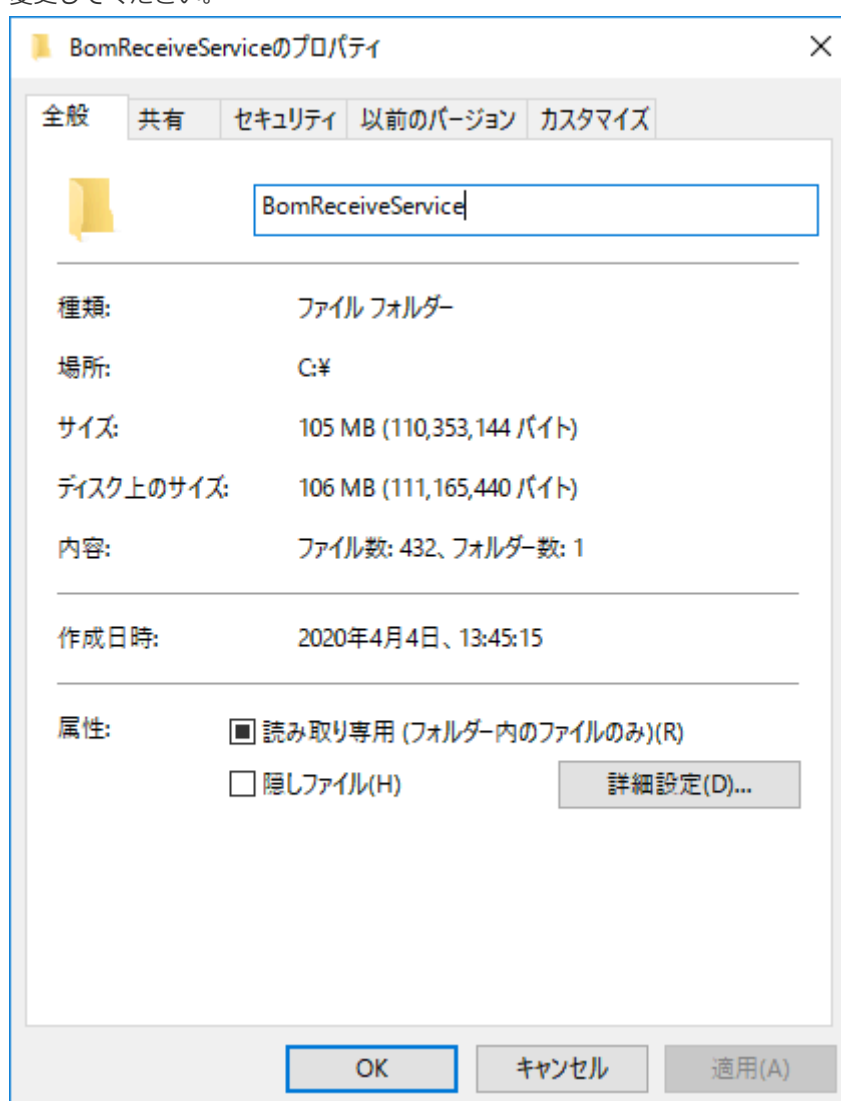
1. IISの設定

(1) 事前設定

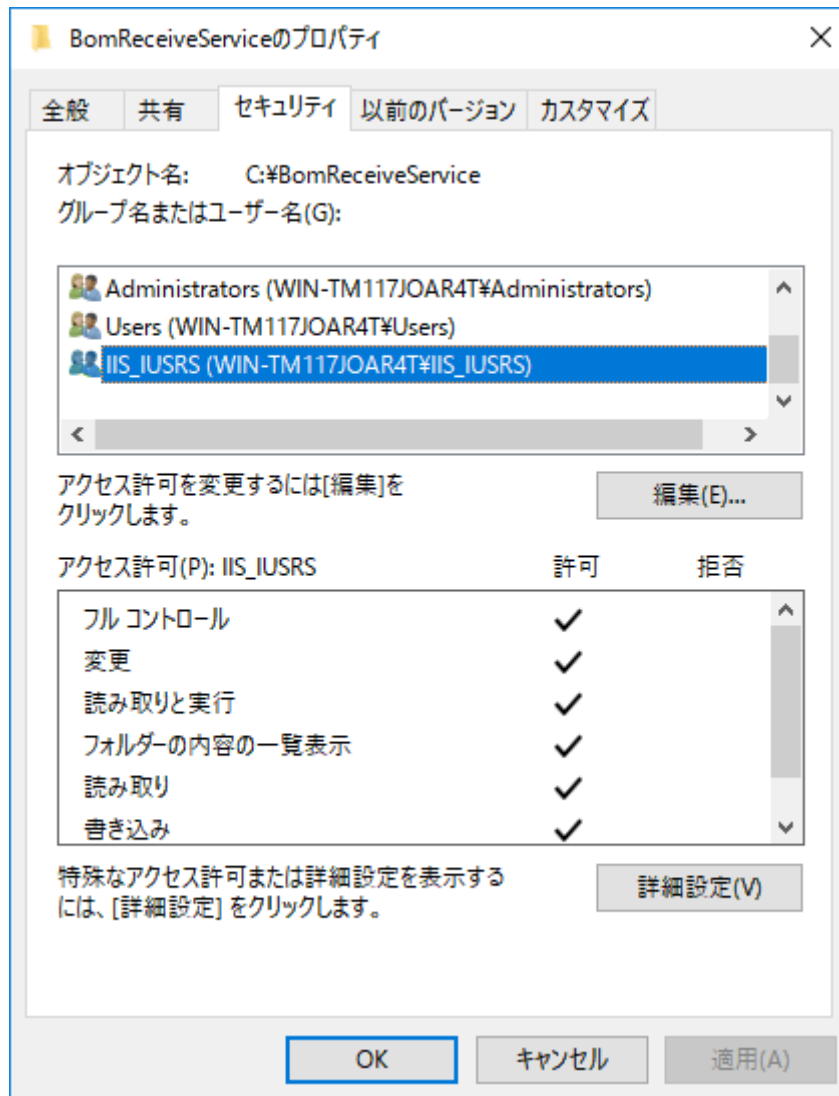
1. BOM 8.0 インストールパッケージの以下の場所に格納されている"受信サーバー.zip" を展開し、HTTPS 受信サーバーにする環境上の任意の場所に保存します。

[BOM インストールパッケージ]¥TOOLS¥HTTPS送受信¥受信サーバー

2. 展開したフォルダー（フォルダー名 "Publish"）の "プロパティ" - "全般" タブから、フォルダー名を任意の名前に変更してください。



3. 展開したフォルダーの "プロパティ" - "セキュリティ" - "編集" から、「アクセス許可」へ「IIS_IUSRS」グループを"フルコントロール"で追加します。



4. 送信クライアントから受信するファイルの保存先フォルダーを、任意の場所・名前で作成します。
- 本項で保存先フォルダーを作成しなかった場合、既定の保存先フォルダーである一時フォルダー（環境変数： %Temp%）に受信ファイルが保存されます。
5. 項番 4 で作成したフォルダーに対して、項番 3 と同様の手順で、「アクセス許可」へ「IIS_IUSRS」グループを"フルコントロール"で追加します。

(2) アプリケーションプールの作成

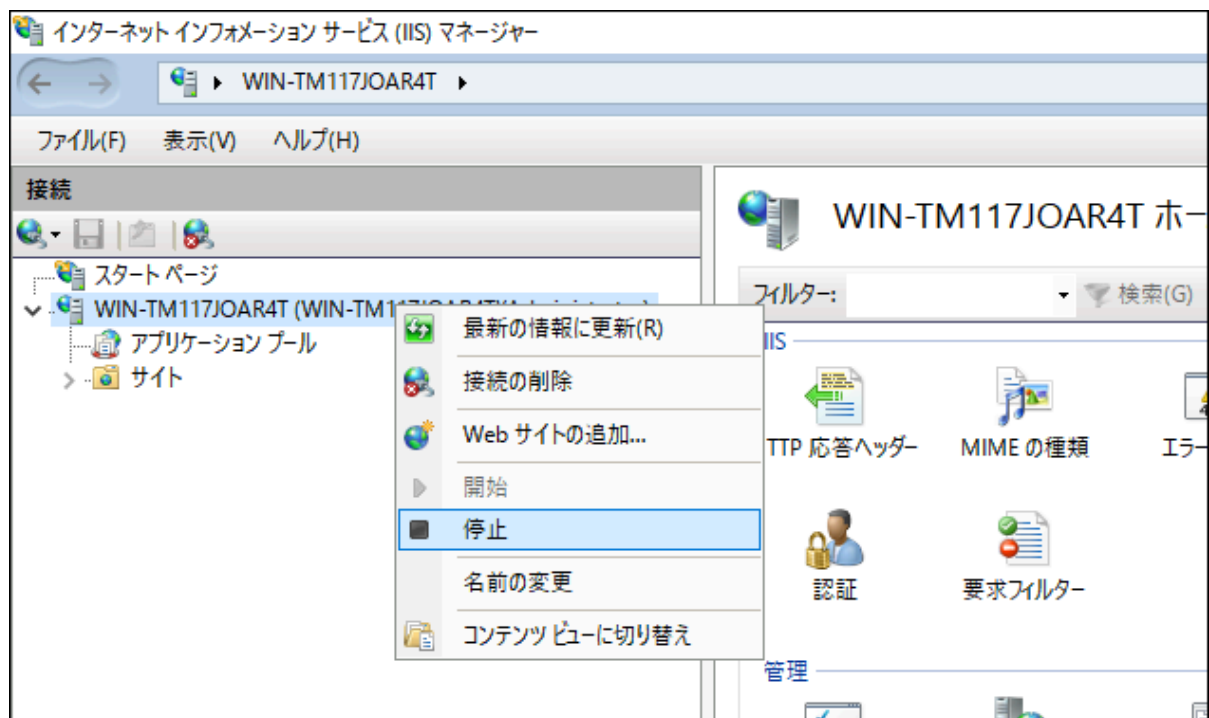
1. "コントロール パネル" - "システムとセキュリティ" - "管理ツール" - "インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー" (以降、"IIS マネージャー") を起動します。

Windows Server バックアップ	2016/07/16 22:20	ショートカット	2 KB
Windows メモリ診断	2016/07/16 22:19	ショートカット	2 KB
イベント ビューアー	2016/07/16 22:18	ショートカット	2 KB
インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー	2016/07/16 22:19	ショートカット	2 KB
コンピューターの管理	2016/07/16 22:18	ショートカット	2 KB
コンポーネント サービス	2016/07/16 22:18	ショートカット	2 KB
サーバー マネージャー	2016/07/16 22:19	ショートカット	2 KB
サービス	2016/07/16 22:18	ショートカット	2 KB
システムイベント	2016/07/16 22:19	ショートカット	2 KB

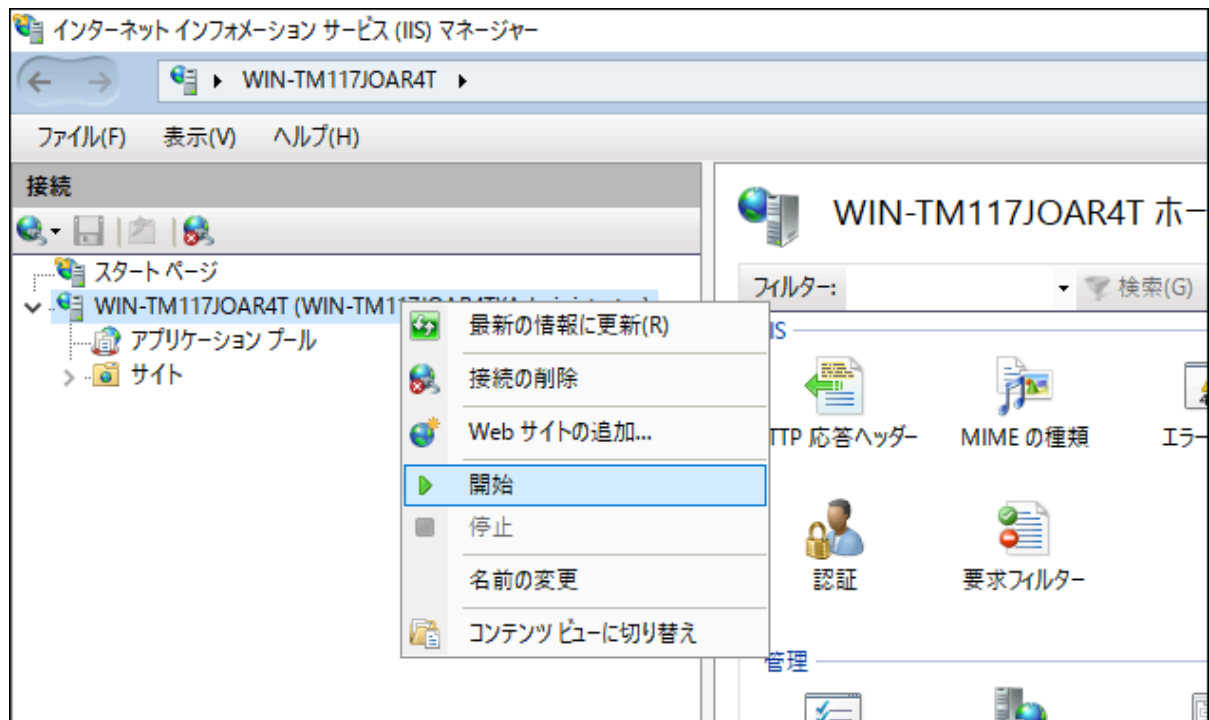
2. IIS が起動している場合は再起動します。

"IIS マネージャー" のスコープペインで、インスタンス名を "右クリック" - "停止" し、その後 "右クリック" - "開始" をクリックします。

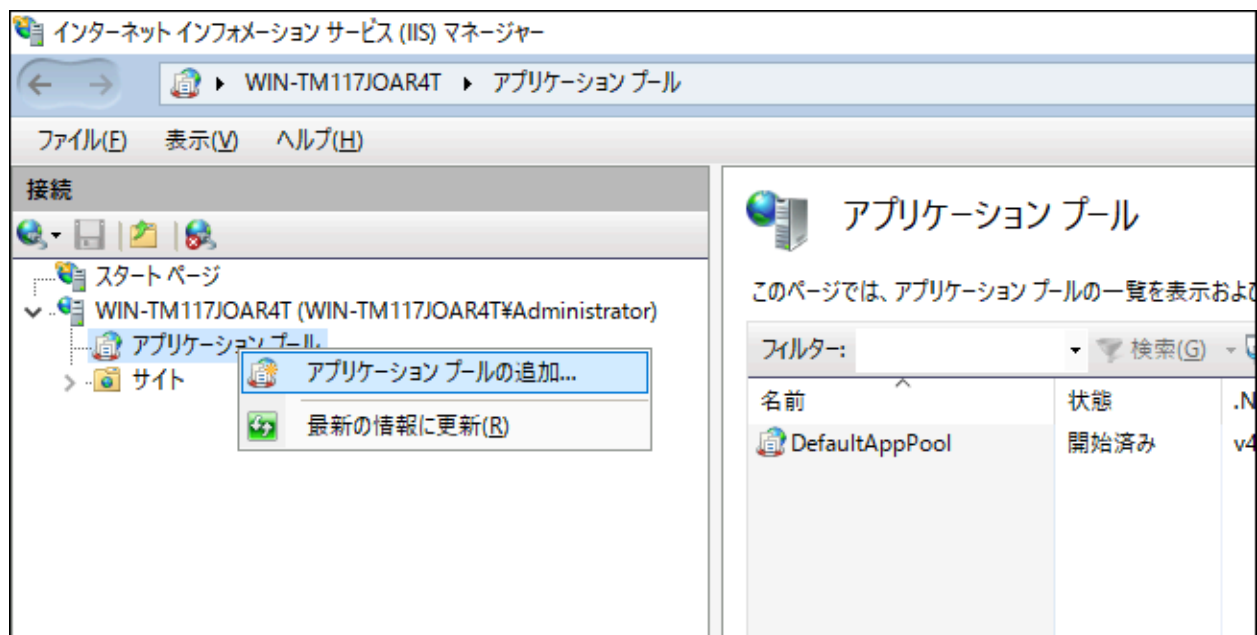
- 【停止】



- 【開始】



3. スcopeペインの "インスタンス名" - "アプリケーションプール" を右クリックし、"アプリケーションプールの追加..." をクリックします。



4. "アプリケーションプールの追加" の各項目に対して、以下の内容を設定して [OK] ボタンをクリックします。

アプリケーションプールの追加

名前(N):
BOM-RCV

.Net CLR バージョン(Q):
マネージド コードなし

マネージド パイプライン モード(M):
統合

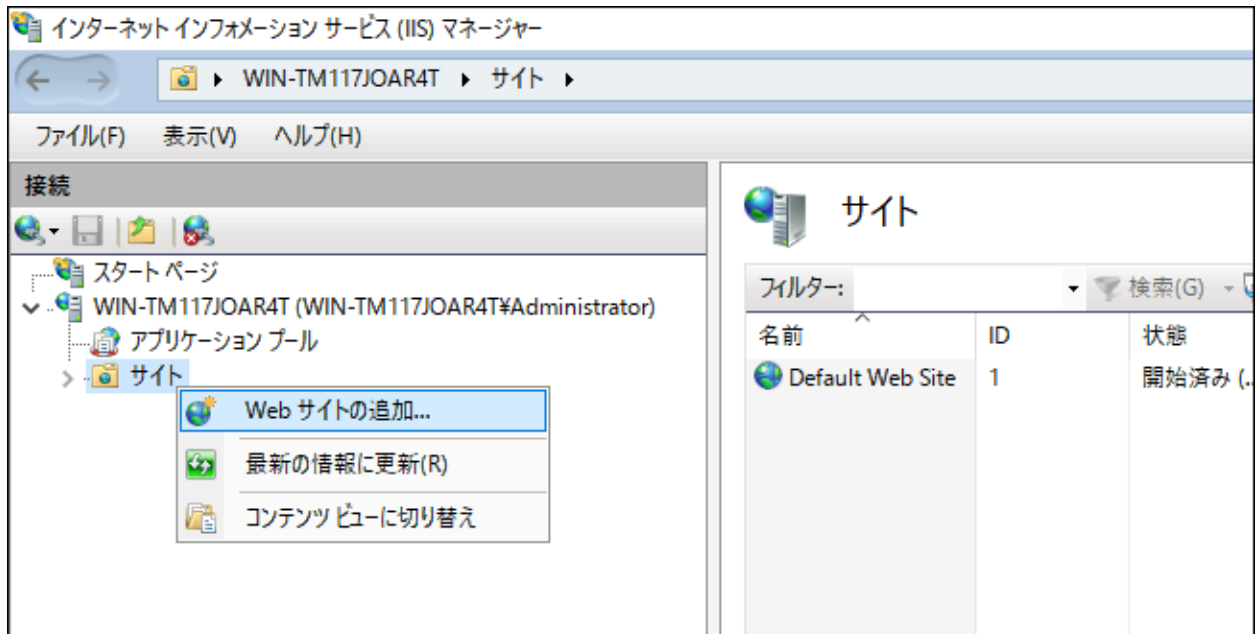
☒ アプリケーションプールを直ちに開始する(S)

OK キャンセル

- 名前：任意の名称
- .Net CLR バージョン：マネージコードなし
- マネージ パイプラインモード：統合
- アプリケーション プールを直ちに開始する：チェックする

(3) Webサイトの作成

1. スコープペインの "インスタンス名" - "サイト" を右クリックし、"Web サイトの追加" をクリックします。



2. "Web サイトの追加" の各項目に対して、以下の内容を設定して[OK]ボタンをクリックします。

The 'Web サイトの追加' dialog box is shown with the following settings:

- サイト名(S):** BOM Web Site
- アプリケーション プール(L):** BOM-RCV
- コンテンツ ディレクトリ**
 - 物理パス(P):** C:\BomReceiveService
 - パススルー認証**
 - 接続(C)...
 - テスト設定(G)...
- バインド**
 - 種類(T):** https
 - IP アドレス(I):** 未使用の IP アドレスすべて
 - ポート(O):** 443
 - ホスト名(H):** BOM-RCVSVR
 - ☐ サーバー名表示を要求する(N)
 - SSL 証明書(E):** 未選択
- ☒ Web サイトを直ちに開始する(M)

Buttons at the bottom: OK, キャンセル

- サイト名：任意の名称
- アプリケーションプール：「アプリケーションプールの作成」で作成したアプリケーションプール

- 物理パス：「事前設定」で展開したフォルダー
- 種類：https を選択
- IP アドレス：任意の IP アドレスを指定
- ポート：任意のポート番号を指定
- ホスト名：任意のホスト名を指定
- サーバー名表示を要求する：変更しない
- SSL 証明書：登録済みの HTTPS 通信で使用する証明書を選択
- Web サイトを直ちに開始する：変更しない

3. 「事前設定」で展開したフォルダー内の "appsettings.json" をテキストエディタなどで開き、以下のパラメーターを変更して保存します。

- SavePath :

送信クライアントから受信するファイルの保存先フォルダー（「事前設定」で作成したフォルダー）のパスを設定します。表記上、ディレクトリの区切りは「¥/」（円記号+スラッシュ）と、エスケープ記号付きで入力してください。

既定値は一時フォルダー（環境変数：%Temp%）です。

- SecurityKey :

HTTPS 送信クライアントとの通信に使用する暗号化キーの文字列を設定します。任意の値を指定してください。

- Audience :

本項目は HTTPS 送信システムの使用ユーザー名を、任意の文字列で入力してください。

- Issuer :

本項目は HTTPS 送信システムの発行者名を、任意の文字列で入力してください。

【設定例】

```
{
  "AppSettings": {
    "Notify": {
      "SavePath": "C:¥/Users¥/Administrator¥/Desktop¥/log"
    }
  },

  "Logging": {
    "LogLevel": {
      "Default": "Warning",
      "Microsoft": "Warning"
    }
  },

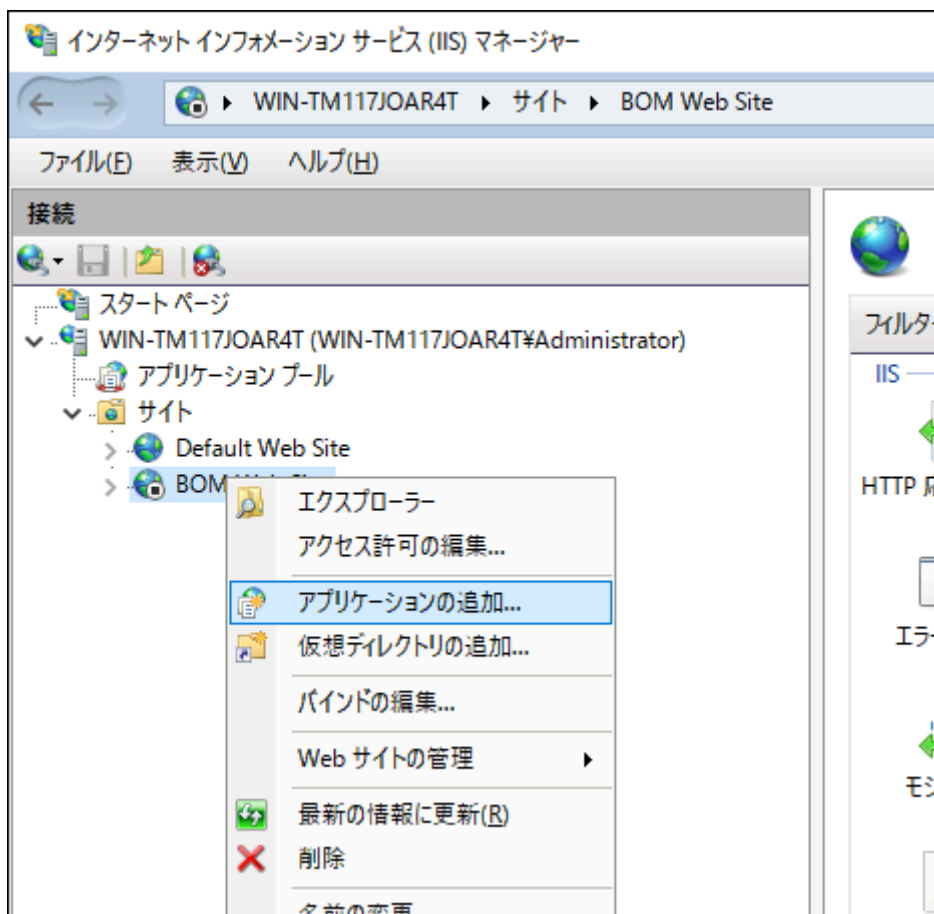
  "AllowedHosts": "*",
  "ConnectionStrings": {
    "Default": "Data Source=bomreceiveservice.db"
  }
}
```

```
},  
//認証情報は適当に書き換える  
"JwtAuthentication": {  
  //暗号キー。ランダムな値を指定する。  
  "SecurityKey": "8p]ouDt$/suvv0G(exO+ju;,$-?I5tb.",  
  //誰が使うのか  
  "Audience": "BomReceiveService.say-tech.co.jp",  
  //誰が発行したのか  
  "Issuer": "BomReceiveService.say-tech.co.jp",  
}
```

～後略～

(4) アプリケーションの追加

1. スコープペインの "インスタンス名" - "サイト" - "(3)で作成したサイト名" で右クリックし、"アプリケーションの追加" をクリックします。



2. "アプリケーションの追加" の各項目に対して、以下の内容を設定して[OK]ボタンをクリックします。

The dialog box 'アプリケーションの追加' contains the following fields and controls:

- 'サイト名:' BOM Web Site
- 'パス:' /
- 'エイリアス(A):' WebAPP (with example text '例: sales' below it)
- 'アプリケーション プール(L):' BOM-RCV (with a '選択(E)...' button to its right)
- '物理パス(P):' C:\BomReceiveService (with a browse button '...' to its right)
- 'パススルー 認証' section with '接続(C)...' and 'テスト設定(G)...' buttons.
- A checkbox for 'プリロードの有効化(N)' which is currently unchecked.
- 'OK' and 'キャンセル' buttons at the bottom right.

- エイリアス : "WebAPP" 固定で入力
- アプリケーションプール : 「アプリケーションプールの作成」で作成したアプリケーションプール

- 物理パス：「事前設定」で展開したフォルダー

2. BOM アーカイブ設定

BOM アーカイブデータを受信し、BOM アーカイブデータベースに登録するための設定を行います。

本設定には BOM 8.0 の以下のコンポーネントのインストールが必須です。インストール手順については 'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。

- 監視サービス
- BOM コントロールパネル
- BOM マネージャー

また、アーカイブデータを登録する、BOM アーカイブデータベースの構築があらかじめ必要です。BOM アーカイブデータベースの構築については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブユーザズマニュアル' を参照してください。

1. '[HTTPS受信サーバーの事前準備](#)' の「必要なファイルの準備」で準備した以下のファイルを、HTTPS 受信サーバー上の任意のディレクトリへコピーします。
 - CabImporter.exe
 - rule.conf
 - WrapBomCabImporter.bat

2. HTTPS 受信サーバー上の任意の場所に、任意の名称で以下の用途に使用するフォルダーを作成します。
 - これらのフォルダー作成は、各用途で格納するファイルを分けるために使用します。この3つのフォルダーに加えて、'[事前設定](#)' の項番 4 で作成した、HTTPS 送信クライアントから受信するファイル（cab形式）の保存先フォルダーについて、ファイルの格納場所を分別する必要がない場合は、単一または4つ以下のフォルダーにまとめて運用することも可能です。
 - アーカイブデータ格納フォルダー
 - アーカイブファイル異常時のファイル退避用フォルダー
 - アーカイブファイル登録処理のログファイル出力用フォルダー

3. BOM アーカイブデータベース登録処理用のパラメーター設定ファイルを YAML 形式で作成し、任意の名称（拡張子は「.yaml」）で HTTPS 受信サーバー上の任意の場所に保存します。

YAML 形式のファイルには "key:" と "value:" で 1 組の設定となり、"key:" に対するパラメーターを "value:" に設定します。

key:	value:
key: aserver	value: 'アーカイブDBサーバー名'
key: cabdir	value: '「HTTPS 送信クライアントから受信するアーカイブデータファイル（cab 形式）の保存先フォルダー」パス（' 事前設定 ' の項番 4 で作成）'
key: arcdir	value: '項番 2 で作成した「アーカイブデータ格納フォルダー」パス'
key: bf	value: '項番 2 で作成した「アーカイブファイル異常時の退避用フォルダー」パス'
key: logtype (※)	value: 'ログ出力設定レベル'

key:	value:
key: fileout	value: '項番 2 で作成した「アーカイブファイル登録処理のログファイル出力用フォルダー」パス'

※ ログ出力レベルは以下の設定値でパラメーターを指定してください。

- すべてのログを出力する：-1
- 情報、警告、エラー、致命的のログのみを出力する：0
- 警告、エラー、致命的のログのみを出力する：0、-1 以外の任意の数値

【YAML ファイル設定例】

※ 先頭に "parameters:" が必要です。また、次行からはインデントしてください。

```
parameters:
  #アーカイブDBサーバー名
  -
    key: aserver
    value: bom-archive-server
  #アーカイブファイルが存在する受信サーバーの保存先フォルダー
  -
    key: cabdir
    value: 'C:¥ReceiveData'
  #アーカイブデータ格納フォルダー
  -
    key: arcdir
    value: 'C:¥archive_work¥archivefiles'
  #アーカイブファイル異常時の退避先フォルダー
  -
    key: bf
    value: 'C:¥archive_work¥error'
  #ログ出力レベル設定
  -
    key: logtype
    value: -1
  #ログファイル出力パス
  -
    key: fileout
    value: 'C:¥cabimpoter¥log¥log.txt'
```

4. BOM マネージャーを起動し、ログインします。

5. HTTPS 受信サーバーを監視インスタンスとして追加し、任意の監視グループ下に「フォルダー・ファイル監視」を作成します。

インスタンスの追加方法、監視項目の追加方法については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' を参照してください。

6. 「フォルダー・ファイル監視」に対して、HTTPS 送信クライアントから受信するアーカイブデータファイルの、保存先フォルダーのファイル数を監視する設定を行います。監視項目「フォルダー・ファイル監視」の設定方法については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' の「フォルダー・ファイル監視」を参照してください。

- 設定は、対象のフォルダーにアーカイブデータファイルが保存されたことを検知する内容にしてください。

7. 項番 6 で設定した「フォルダー・ファイル監視」をスコープペイン上で右クリックし、"新規作成" - "カスタムアクション"を選択します。

8. 項番 7 で作成した「カスタムアクション」に対して、以下の設定を行います。

設定方法の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' の「カスタムアクション」を参照してください。

【設定内容】

- "実行条件" タブでは、項番 5 で設定した「フォルダー・ファイル監視」が、アーカイブデータファイルの保存を検知した際に動作するよう設定します。
- "設定" タブの "プログラム名" フィールドに、項番 1 で保存した「WrapBomCabImporter.bat」のファイルパスを指定します。
- "設定"タブの"引数"フィールドに、以下の文字列を記述します。

```
-paramfile:[項番 3 で作成した YAML 形式ファイルパス] -moduledir:${InstallDir}¥Bin
```

【記載例】

```
-paramfile:c:¥arcset¥import.yml -moduledir:${InstallDir}¥Bin
```

9. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

3. メール転送設定

HTTPS送信クライアントから送信されたHTTPSによる通知を受信し、メールとして転送する設定を行います。

本設定には BOM 8.0 の以下のコンポーネントのインストールが必須です。インストール手順については 'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル' を参照してください。

- 監視サービス
- BOM コントロールパネル
- BOM マネージャー

1. メール転送処理用のパラメーター設定ファイルを YAML 形式で作成し、任意の名称（拡張子は「.yaml」）で HTTPS 受信サーバー上の任意の場所に保存します。

YAML 形式のファイルには "key:" と "value:" で1組の設定となり、"key:" に対するパラメーターを "value:" に設定します。

key:	value:
key: h	value: '送信元SMTPサーバー情報（ポート指定がある場合は「:ポート番号」）'
key: f	value: '送信元メールアドレス'
key: auth	value: 'SMTPサーバー認証方式' （※1）（※2）
key: u	value: 'SMTPサーバー認証ユーザー名'
key: pw または key: pwplain （※3）	value: 'SMTPサーバー認証パスワード'
key: t	value: '送信先メールアドレス'

※1 SMTP サーバー認証は以下の方式に対応しています。使用する認証方式に応じたパラメーターを指定してください。

- POP before SMTP ... value: PBS
- SMTP CRAM-MD5 ... value: MD5
- SMTP PLAIN ... value: PLAIN
- SMTP LOGIN ... value: LOGIN
- SMTP Over SSL/TLS ... value: PBS
- STARTTLS ... value: STARTTLS

※2 SMTPサーバー認証方式に「POP before SMTP」を使用する場合、POP3サーバーの情報が必須です。設定値は以下の内容で指定できます。

```
Key: pop
value: 'POP3サーバー名:POP3ポート番号'
```

※3 SMTP サーバー認証で使用するパスワード形式を、平文形式または暗号化形式で指定できます。使用するパスワード形式に応じてキーを指定してください。

- パスワードが暗号化形式の場合 ... key: pw
- パスワードが平文形式の場合 ... key: pwplain

【YAML ファイル設定例】

※ 先頭に "parameters:" が必要です。また、次行からはインデントしてください。

```
parameters:
  #SMTPサーバー
  -
    key: h
    value: 'smtp.say-tech.com:587'
  #送信元メールアドレス
  -
    key: f
    value: sayuser01@say-tech.co.jp
  #認証方式
  -
    key: auth
    value: STARTTLS
  #認証ユーザー名
  -
    key: u
    value: sayuser01
  #認証パスワード(平文)
  -
    key: pwplain
    value: s@ytech1234
  #送信先メールアドレス
  -
    key: t
    value: sayuser02@say-tech.co.jp
```

2. BOM マネージャーを起動し、ログインします。
3. HTTPS 受信サーバーを監視インスタンスとして追加し、任意の監視グループ下に「フォルダー・ファイル監視」を作成します。
インスタンスの追加方法、監視項目の追加方法については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'を参照してください。
4. 「フォルダー・ファイル監視」に対して、HTTPS 送信クライアントから受信する送信ファイルの保存先フォルダーのファイル数を監視する設定を行います。
監視項目「フォルダー・ファイル監視」の設定方法については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'の「フォルダー・ファイル監視」を参照してください。
 - 設定は、対象のフォルダーにHTTPS送信クライアントからの送信ファイルが保存されたことを検知する内容にしてください。
5. 項番 4 で設定した「フォルダー・ファイル監視」をスコープペイン上で右クリックし、「新規作成」 - 「カスタムアクション」を選択します。

6. 項番 5 で作成した「カスタムアクション」に対して、以下の設定を行います。

設定方法の詳細は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' の「カスタムアクション」参照してください。

【設定内容】

- "実行条件" タブでは、項番 5 で設定した「フォルダー・ファイル監視」が HTTPS 送信クライアントから送られたファイルの保存を検知した際に、このカスタムアクションが動作するよう設定します。
- "設定" タブの "プログラム名" フィールドに以下のプログラムを指定します。

```
[BOM 8.0 インストールフォルダー]¥BOMW8¥Bin¥BomRouteSelector.exe
```

- BOM 8.0 は既定値の場合、"C:¥Program Files¥SAY Technologies" 以下にインストールされます。

- "設定"タブの"引数"フィールドに、以下の文字列を記述します。

```
retry --folder [HTTPS 受信サーバーで受信した送信ファイルの格納フォルダーパス] --  
mergemailsetting [項番 1 で作成した YAML 形式ファイルパス] --sendtype SMTP --application  
"${InstallDir}¥Bin¥MxMail.exe" --appendsubject ""
```

【記載例】

```
retry --folder c:¥rcvdata --mergemailsetting c:¥arcset¥mail.yml --sendtype SMTP --application  
"${InstallDir}¥Bin¥MxMail.exe" --appendsubject ""
```

7. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

第7章 HTTPS 送信クライアントの設定

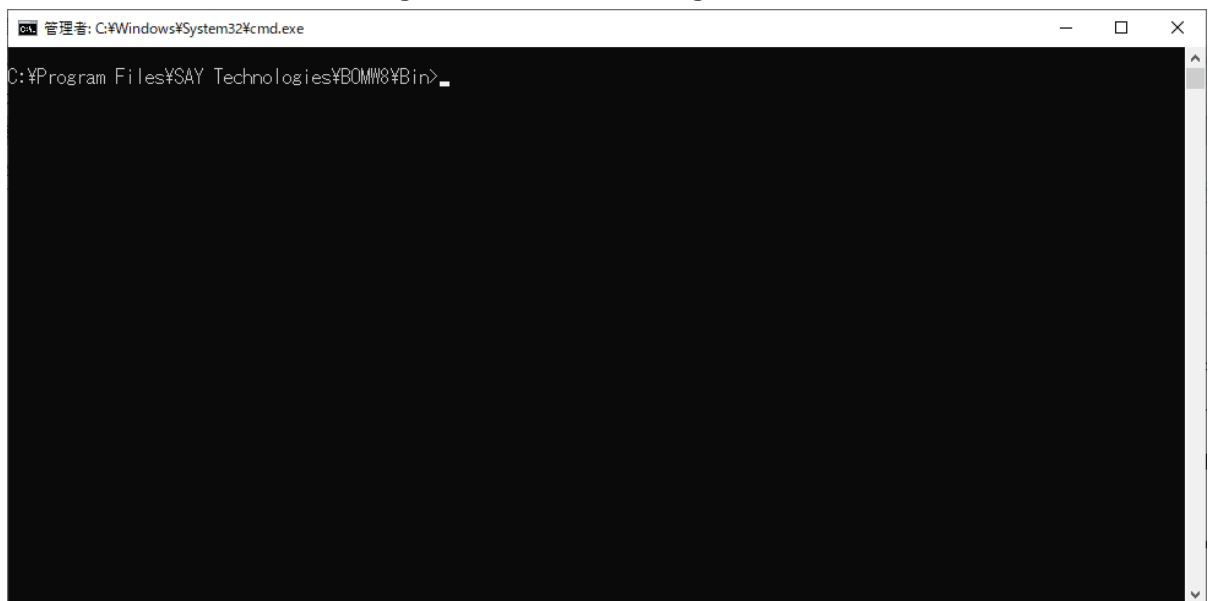
以降の作業は、HTTPS 送信クライアントにするコンピューター上で実行してください。

1. API トークンの取得と設定ファイルの登録

1. 管理者権限で、コマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のコマンドを実行してディレクトリを移動します。

```
cd [BOM 8.0 インストールフォルダー]¥BOMW8¥Bin
```

- BOM 8.0 は既定値の場合、"C:¥Program Files¥SAY Technologies" 以下にインストールされます。



3. 以下のコマンドを実行して admin ユーザーの API トークンを取得します。

```
curl -X POST "https://[受信サーバー(必要であればポート指定)]/api/v1/auth/login" -H "accept: application/json" -H "Content-Type: application/json" -d "{ ¥"userName¥": ¥"admin¥", ¥"password¥": ¥"P@ssw0rd¥"}" -k
```

- ```
C:\Program Files\SAY Technologies\BOMM8\Bin>curl -X POST "https://BOM-RCVSVR/api/v1/auth/login" -H "accept: application/json" -H "Content-Type: application/json" -d '{"username": "admin", "password": "P@ssw0rd"}' -k
```

- ```
curl -X POST "https://[受信サーバー(必要であればポート指定)]/api/v1/accounts" -H "accept: application/json" -H "Authorization: Bearer 取得したトークン文字列" -H "Content-Type: application/json-patch+json" -d "{ ¥"userName¥": ¥"追加したいユーザーID¥", ¥"password¥": ¥"ユーザーパスワード¥"}" -k
```

- [illegible]

- 30 / 44


```
curl -X POST "https://[受信サーバー(必要であればポート指定)]/api/v1/auth/login" -H "accept: application/json" -H "Content-Type: application/json" -d "{ ¥"userName¥": ¥"admin¥", ¥"password¥": ¥"P@ssw0rd¥"}" -k
```

4. admin ユーザーのユーザー ID を取得するために、取得した admin ユーザーのトークン文字列を含めた以下のコマンドを実行します。

```
curl -X GET "http(or https)//[受信サーバー(必要であればポート指定)]/api/v1/accounts" -H "accept: application/json" -H "Authorization: Bearer 取得したトークン文字列" -H "Content-Type: application/json-patch+json" -k
```

5. 項番 4 の実行結果から、userName "admin" のユーザー ID を記録します。
6. admin ユーザーのパスワードを変更するため、取得した "トークン文字列" および、"ユーザー ID" を含めた以下のコマンドを実行します。

```
curl -X PUT "http(or https)//[受信サーバー(必要であればポート指定)]/api/v1/users/ユーザー ID/changepassword" -H "accept: application/json" -H "Authorization: Bearer 取得したトークン文字列" -H "Content-Type: application/json" -d "{ ¥"id¥": ¥"ユーザー ID¥", ¥"oldPassword¥": ¥"P@ssw0rd¥", ¥"newPassword¥": ¥"新しいパスワード¥"}" -k
```

7. 実行後、以下の文字列が返却されることで、パスワード変更は完了です。

【返却値の例】

```
{
  "id": "ユーザーID",
  "userName": "admin",
  "roles": [
    "Admin"
  ]
}
```

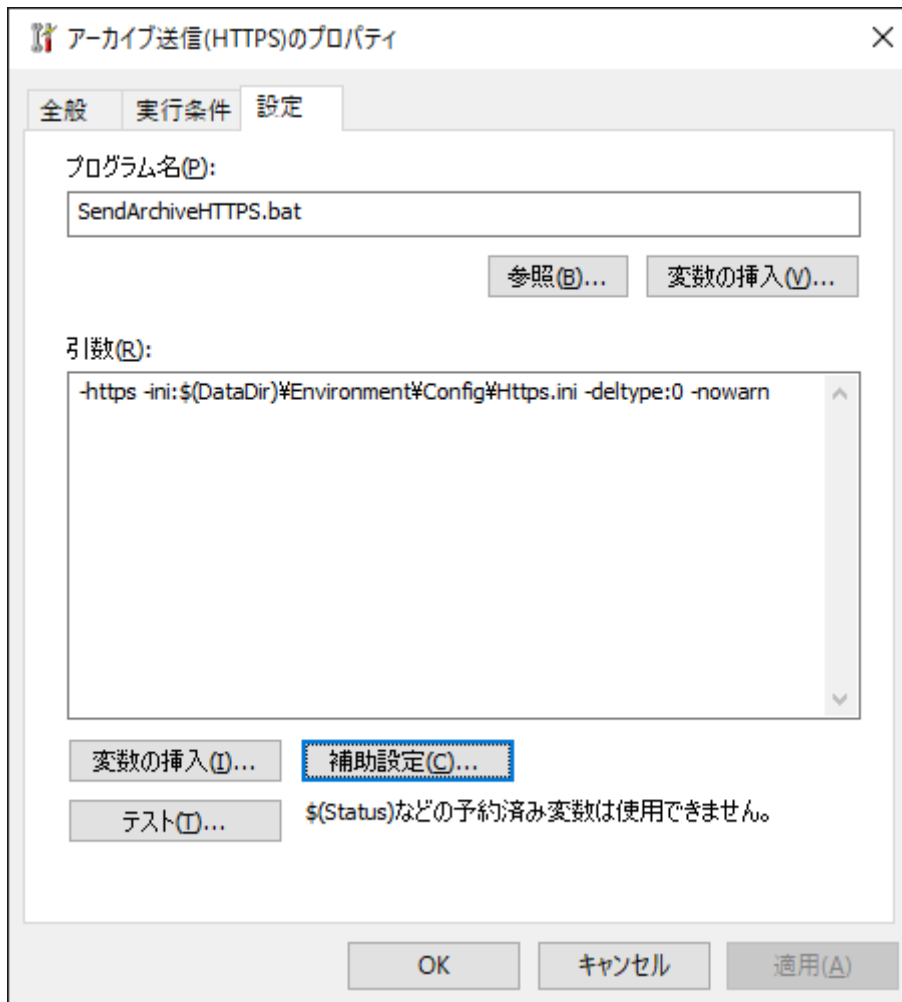

2. BOMアーカイブデータの送信設定

1. BOM マネージャーを起動してログインします。
2. スコープペインでアーカイブデータを送信するインスタンスを右クリックし、"プロパティ" を選択します。
3. "アーカイブ設定" タブを開いて "データベース" および "アーカイブ間隔" を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

- データベース : "ファイル出力" を選択し、出力先のフォルダーを指定（下記画像では "c:¥archive" を指定しています。）
- アーカイブ間隔 : 任意の間隔を選択
 - "アーカイブ設定" タブが表示されない場合は、BOM アーカイブサービスがインストールされていません。'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブ ユーザーズ マニュアル' を参照し、BOM アーカイブサービスをインストールしてください。
 - "データベース" および "アーカイブ間隔" 以外の値については、必要に応じて設定してください。設定内容の詳細については、'BOM for Windows Ver.8.0 アーカイブ ユーザーズマニュアル' を参照してください。

4. 対象のインスタンスを右クリックし、"監視設定のインポート" を選択します。

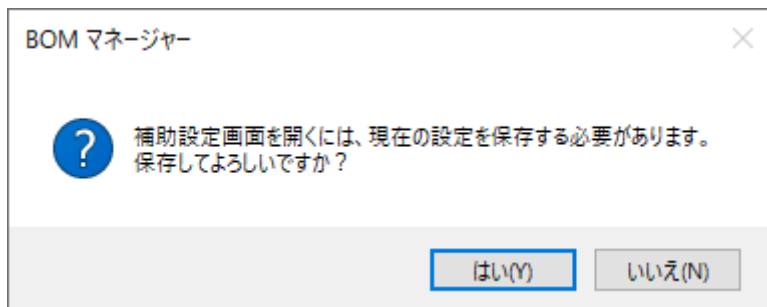
5. '[BOM アーカイブデータを送信する場合](#)' で準備した、"アーカイブ送信(HTTPS).cab" を選択して、インポートします。
対象のインスタンスの監視ノード配下に「アーカイブ送信(HTTPS)」という名称で監視グループが追加され、このグループには監視項目「フォルダー・ファイル監視」および、「アーカイブ送信(HTTPS)」アクションが含まれています。
 - 表示されない場合は、監視ノードアイコンをクリックし、スコープペインの表示をリフレッシュしてください。
6. 監視グループ「アーカイブ送信(HTTPS)」の設定を変更する場合は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' を参照してください。
7. スコープペインに表示された監視項目「フォルダー・ファイル監視」を右クリックし、"プロパティ" を選択します。
8. "設定" タブを開き、"フォルダー / ファイル名" フィールドに項番 3 で指定したアーカイブデータファイルの出力先フォルダーを指定して、[OK] ボタンをクリックします。
 - 監視項目「フォルダー・ファイル監視」のその他の設定を変更する場合は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル'の「フォルダー・ファイル監視」を参照してください。
9. スコープペインに表示された監視項目「フォルダー・ファイル監視」をクリックし、リザルトペインに表示された「アーカイブ送信(HTTPS)」を右クリックして "プロパティ" を選択します。
10. "設定" タブをクリックし、[補助設定] ボタンをクリックします。



- 「プログラム名」フィールドには既定値で、"SendArchiveHTTPS.bat" と入力されています。この値は変更しないでください。

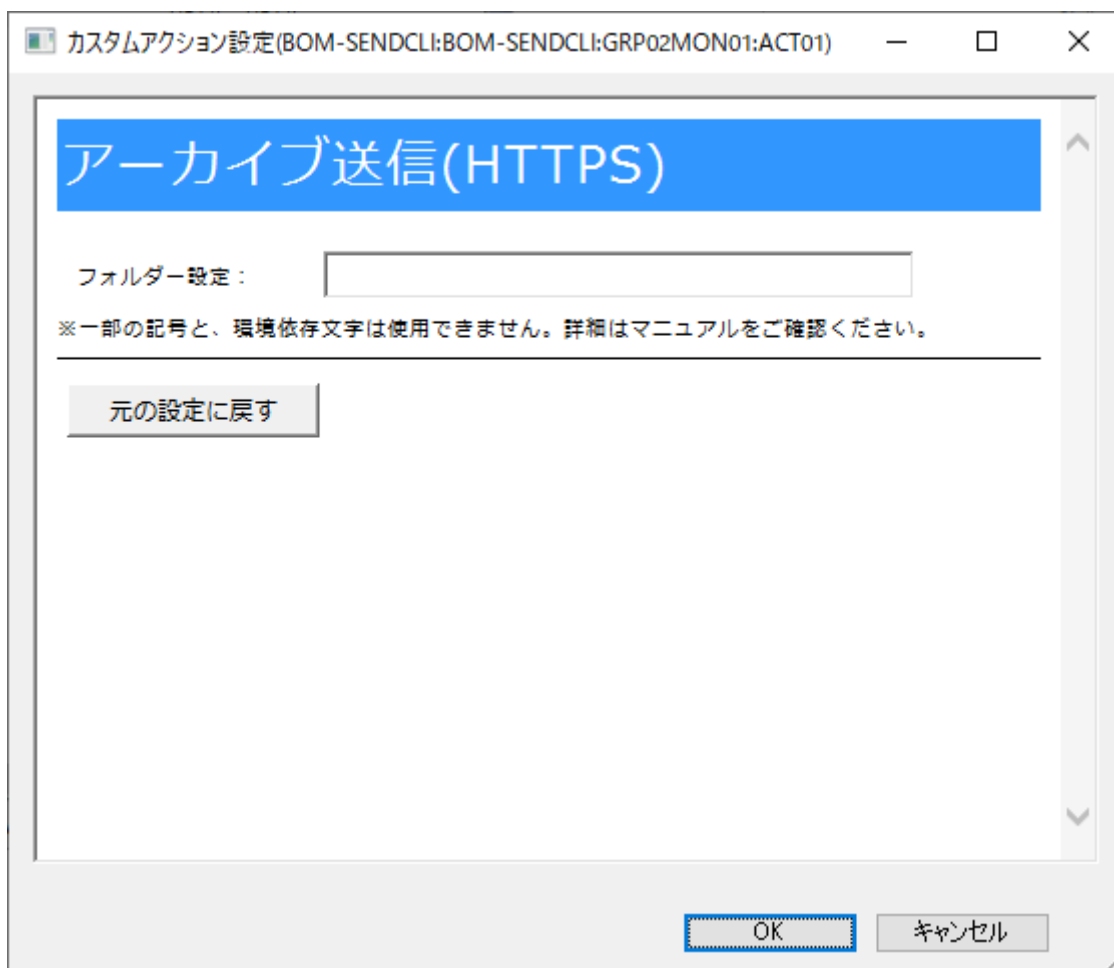
- 本監視では詳細な設定を後述の補助設定画面で行い、設定された内容は自動的に「引数」フィールドへ反映されます。この画面では「引数」フィールドを変更しないでください。
- [参照]ボタン、[変数の挿入(V)]ボタン、[変数の挿入(I)]ボタンは本設定で使用しません。
- [テスト] ボタンは本設定で使用できません。

11. BOMマネージャー画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



12. カスタムアクション設定画面が開きます。

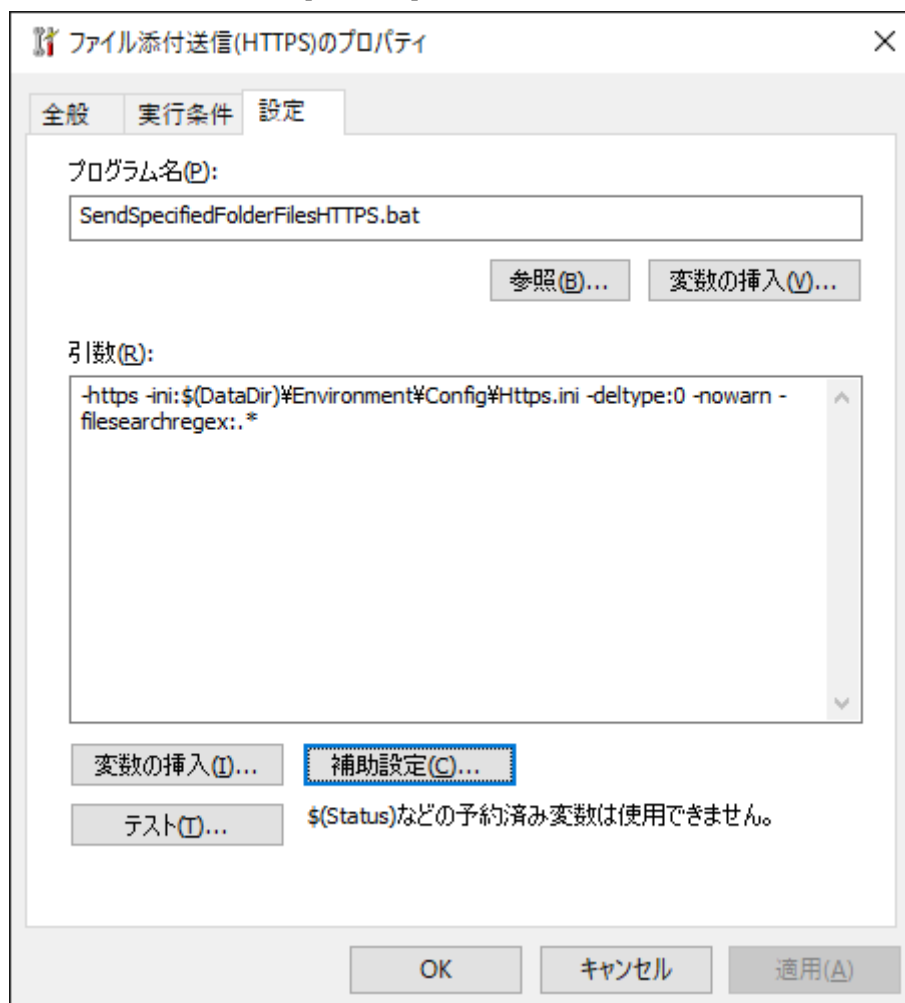
"フォルダー設定" フィールドに項番 3 で指定したアーカイブデータファイルの出力先フォルダーを指定して、[OK] ボタンをクリックします。



13. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

3. ファイル送信の設定

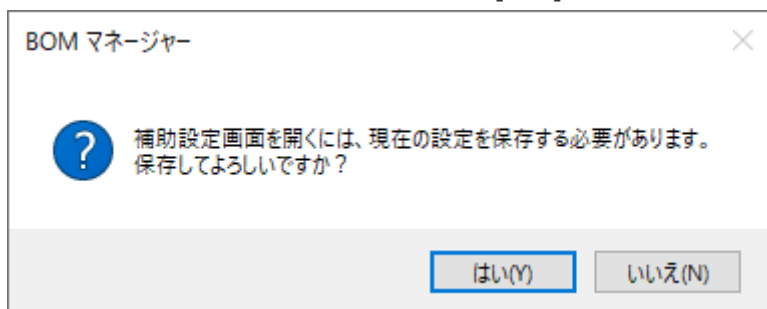
1. BOM マネージャーを起動してログインします。
2. 対象のインスタンスを右クリックし、"監視設定のインポート" を選択します。
3. '[ファイル送信を行う場合](#)' で準備した、"ファイル添付送信(HTTPS).cab"を選択して、インポートします。
対象のインスタンスの監視ノード配下に「ファイル添付送信(HTTPS)」という名称で監視グループが追加され、このグループには監視項目「フォルダー・ファイル監視」および、「ファイル添付送信(HTTPS)」アクションが含まれています。
 - 表示されない場合は、監視ノードアイコンをクリックし、スコープペインの表示をリフレッシュしてください。
4. 監視グループ「ファイル添付送信(HTTPS)」の設定を変更する場合は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' を参照してください。
5. ファイル添付送信の起動条件となる監視項目「フォルダー・ファイル監視」の設定については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' の「フォルダー・ファイル監視」を参照してください。
6. スコープペインに表示された監視項目「フォルダー・ファイル監視」をクリックし、リザルトペインに表示された「ファイル添付送信(HTTPS)」を右クリックして "プロパティ" を選択します。
7. "設定" タブをクリックし、[補助設定] ボタンをクリックします。



- 「プログラム名」フィールドには既定値で、"SendSpecifiedFolderFilesHTTPS.bat" と入力されています。この値は変更しないでください。
- 本監視では詳細な設定を後述の補助設定画面で行い、設定された内容は自動的に「引数」フィールドへ反映されます。この画面では「引数」フィールドを変更しないでください。

- [参照] ボタン、[変数の挿入(V)] ボタン、[変数の挿入(I)] ボタンは本設定で使用しません。
- [テスト] ボタンは本設定で使用できません。

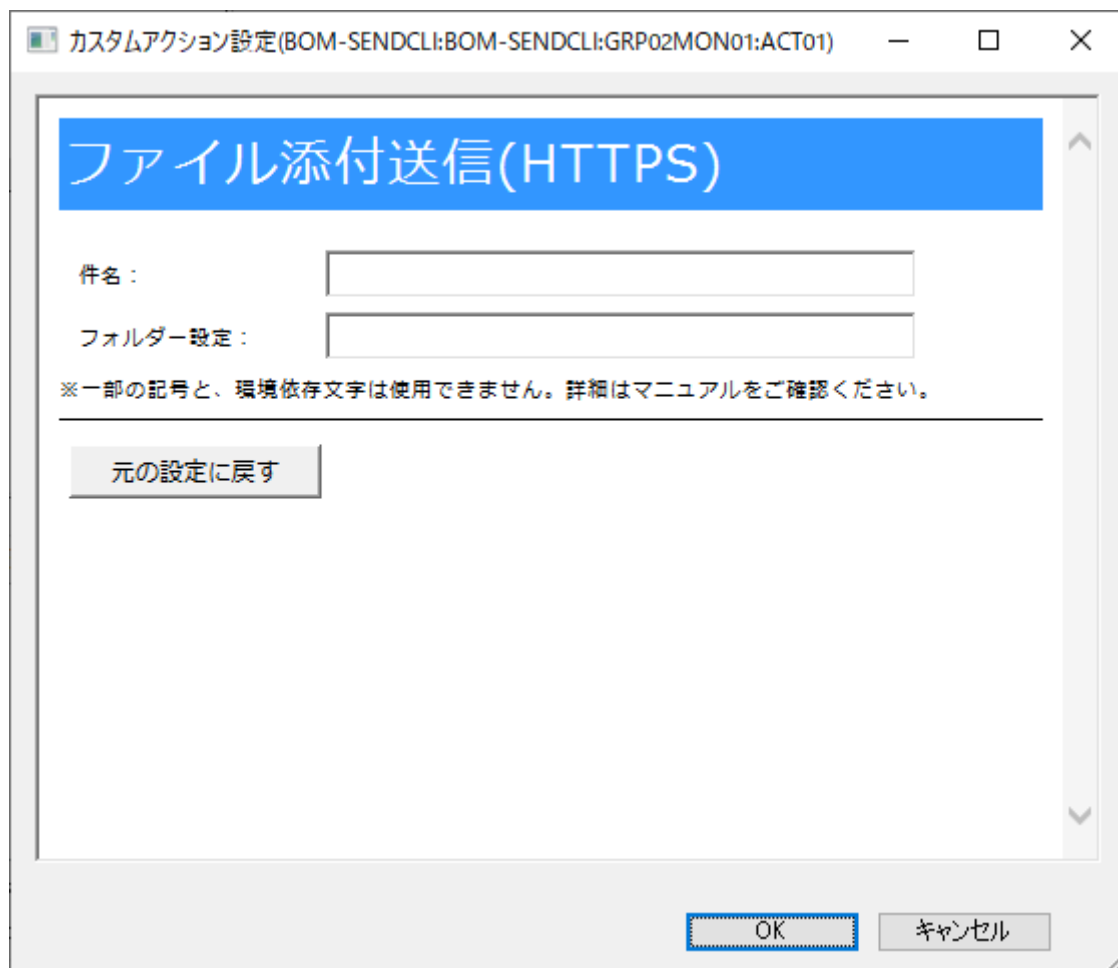
8. BOMマネージャー画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



9. カスタムアクション設定画面が開きます。

"件名" フィールドに任意の文字列を入力し、また "フォルダー設定" フィールドには項番 6 で監視項目「フォルダー・ファイル監視」で指定した監視先フォルダーを入力して、[OK] ボタンをクリックします。

- ここで設定した"件名"は、HTTPS受信サーバーからメールとして転送した際に、メールの件名として設定されます。



10. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

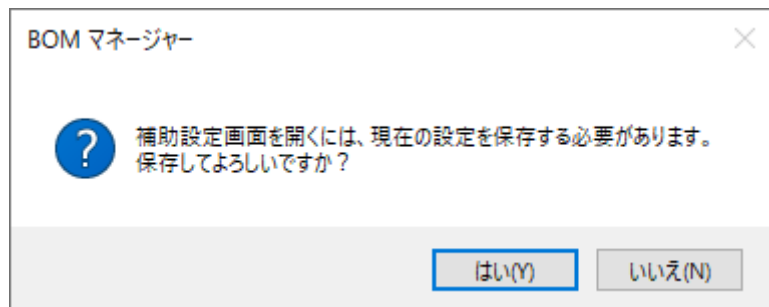
4. 「HTTPS送信」アクションの設定

「HTTPS送信」アクションを使用することで、任意の監視項目の監視結果を起動条件として、通知およびファイルの送信を実行できます。

1. BOM マネージャーを起動してログインします。
2. スコープペインより、「HTTPS送信」アクションの起動条件とする監視項目を右クリックし、「新規追加」 - 「HTTPS送信」をクリックします。
3. スコープペインより、「HTTPS送信」アクションの起動条件とする監視項目をクリックし、リザルトペインに表示された「HTTPS送信」を右クリックして「プロパティ」を選択します。
4. "全般" タブおよび、"実行条件" タブの設定については、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' で「アクション項目の概要」を参照してください。
5. "設定" タブをクリックし、[補助設定] ボタンをクリックします。
 - 「プログラム名」フィールドには既定値で、"BomRouteSelectorKicker.exe"と入力されています。この値は変更しないでください。
 - 本監視では詳細な設定を後述の補助設定画面で行い、設定された内容は自動的に「引数」フィールドへ反映されます。この画面では「引数」フィールドを変更しないでください。
 - [参照] ボタン、[変数の挿入(V)] ボタン、[変数の挿入(I)] ボタンは本設定で使用しません。
 - [テスト] ボタンは本設定で使用できません。

The screenshot shows the 'HTTPS送信のプロパティ' (HTTPS Send Properties) dialog box with the '設定' (Settings) tab selected. The 'プログラム名(P):' (Program Name) field contains 'BomRouteSelectorKicker.exe'. Below it are buttons for '参照(B)...' (Reference) and '変数の挿入(V)...' (Insert Variable). The '引数(R):' (Arguments) text area contains the command: `-https -ini:$(DataDir)¥Environment¥Config¥Https.ini -nowarn -noerrorfolder`. At the bottom, there are buttons for '変数の挿入(I)...' (Insert Variable), '補助設定(C)...' (Auxiliary Settings), and 'テスト(T)...' (Test). A note states: '\$(Status)などの予約済み変数は使用できません。' (Reserved variables such as \$(Status) cannot be used). The bottom of the dialog has 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用(A)' (Apply) buttons.

6. BOM マネージャー画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。

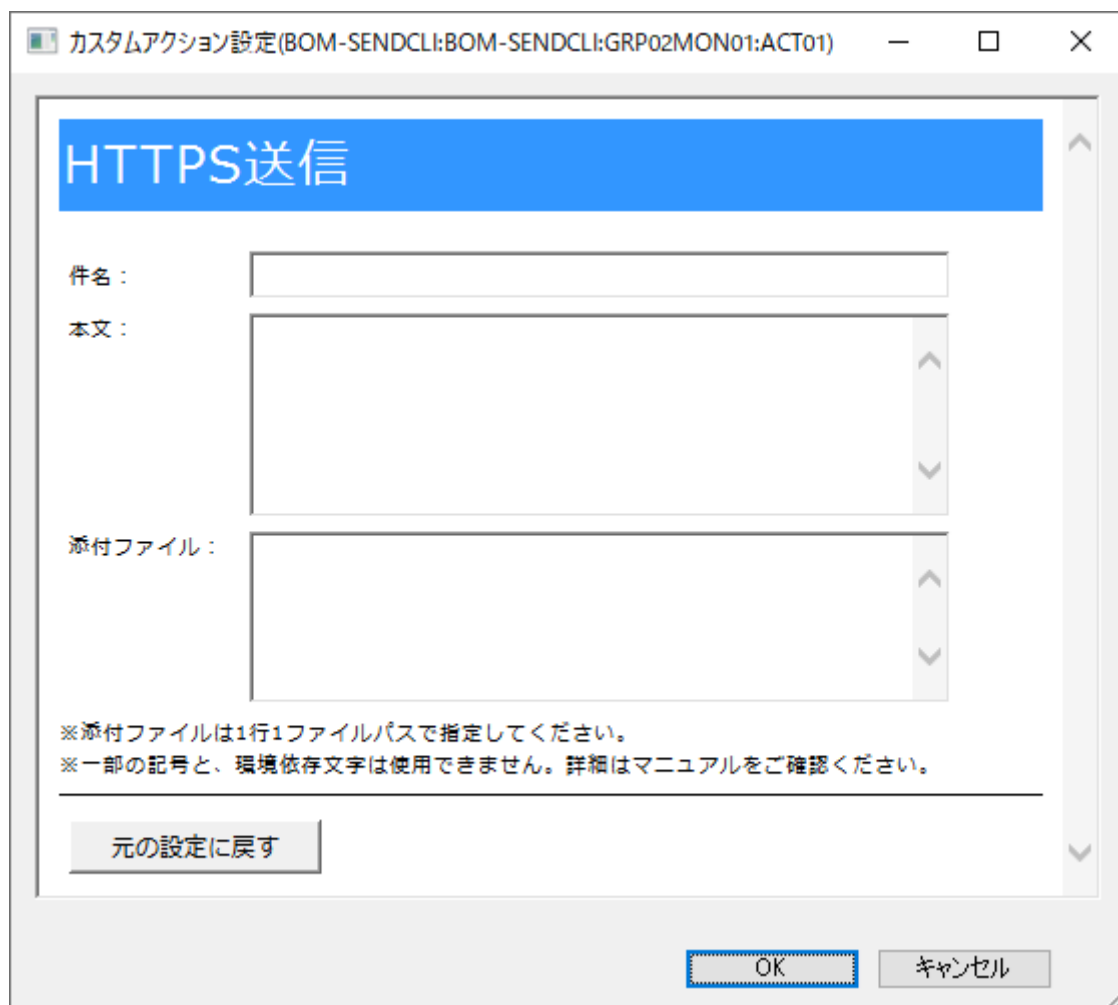


7. カスタムアクション設定画面が開きます。

"件名" フィールドおよび "本文" フィールドに任意の文字列を入力し、また "添付ファイル" フィールドには送信時に添付するファイルを絶対パスで指定します。

フォルダー単位や、ワイルドカードを使用した添付ファイルの指定はできません。また、複数のファイルを指定する場合は、1ファイルごとに改行を入れて記述してください。

- ここで設定した "件名" および "本文" は、それぞれ HTTPS 受信サーバーからメールとして転送した際に、メールの件名および本文として設定されます。
- 添付ファイルに指定するパスの文字列に空白がある場合は、1 行で記載することで送信対象に指定できます。文字列の前後をダブルクォーテーションで囲む記述方法は使用できません。

A dialog box titled "カスタムアクション設定(BOM-SENDCLI:BOM-SENDCLI:GRP02MON01:ACT01)" with standard window controls (minimize, maximize, close). The main content area has a blue header "HTTPS送信". Below it are three input fields: "件名:" (Subject), "本文:" (Body), and "添付ファイル:" (Attachments). Each field has a vertical scrollbar. At the bottom of the main area, there is a button "元の設定に戻す" (Return to original settings). Below the input fields, there are two lines of small text: "※添付ファイルは1行1ファイルパスで指定してください。" and "※一部の記号と、環境依存文字は使用できません。詳細はマニュアルをご確認ください。" At the very bottom of the dialog, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel). The "OK" button is highlighted with a blue border.

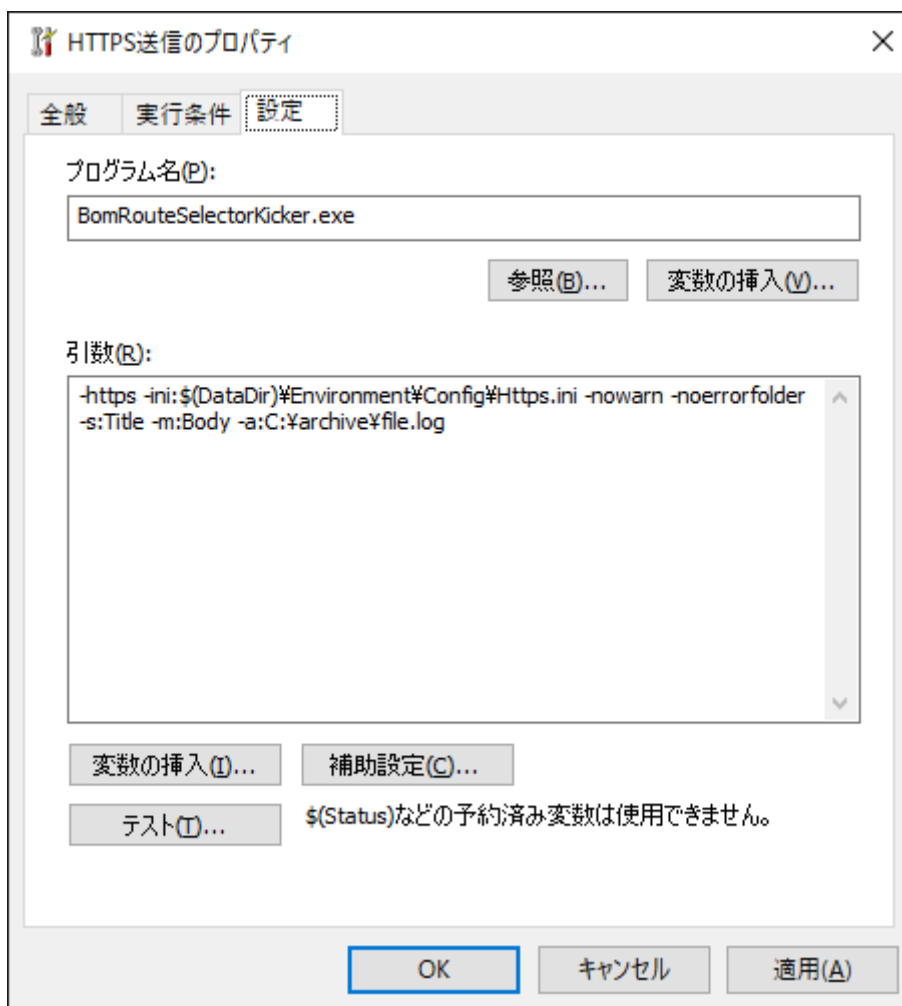
8. 必要な項目を設定後、[OK]ボタンをクリックします。

9. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

5. HTTPS送信失敗時のリトライ設定

通常、「アーカイブ送信 (HTTPS)」アクション、「ファイル添付送信 (HTTPS)」アクション、「HTTPS送信」アクションはすべてエラー時に再送を行いませんが、以下の手順で再送設定を行うことにより「HTTPS送信」アクションのみは再送処理を実行することができます。

1. HTTPS 送信クライアント上に、HTTPS の再送用ファイルを保存するフォルダーを作成します。
2. BOM マネージャーを起動してログインします。
3. 再送設定を行いたい「HTTPS 送信」アクションを右クリックし、「新規追加」 - 「HTTPS 送信」をクリックします。
4. 対象のアクションのプロパティで、「設定」タブをクリックします。
5. "引数" フィールドに以下の変更を行います。
 - 引数に「-noerrorfolder」が含まれている場合は、削除します。
 - 末尾に「"-eout:リトライファイル作成先のパス"」（ダブルクォーテーションも含みます）を追記します。



【記載例】

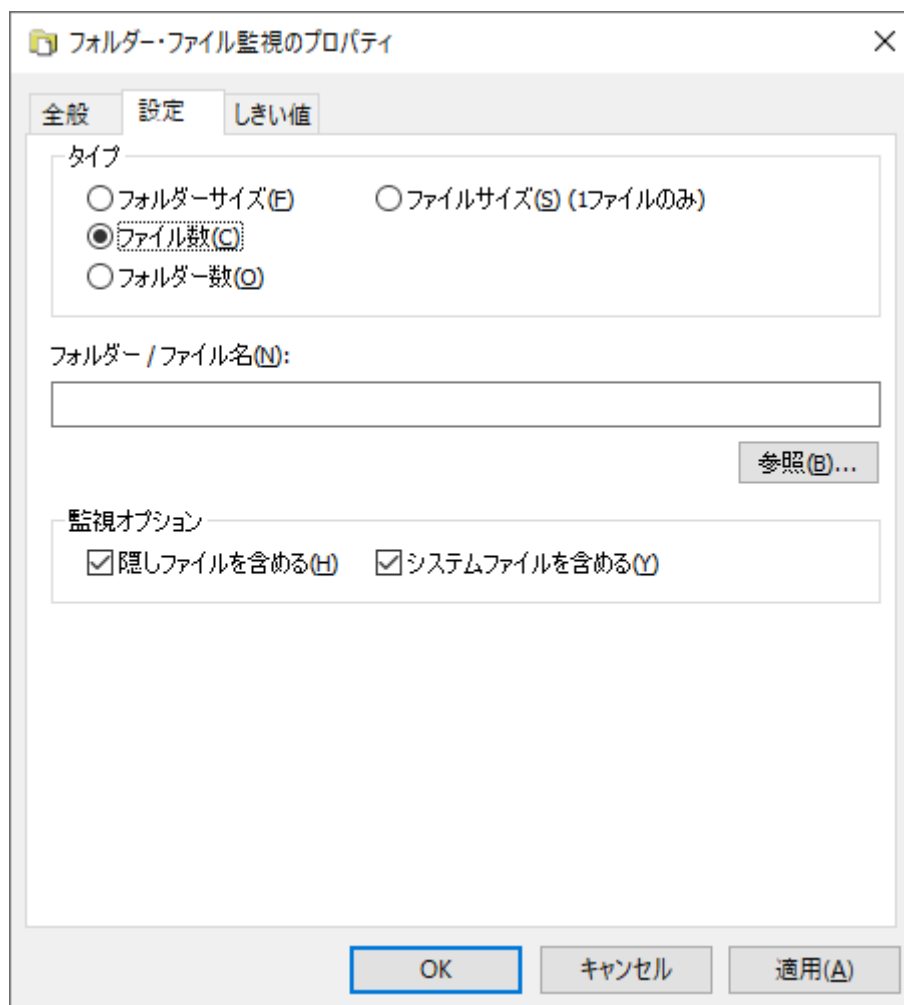
変更前：

```
-https -ini:${DataDir}¥Environment¥Config¥Https.ini -nowarn -noerrorfolder -s:Title -m:Body -a:C:¥archive¥file.log
```

変更後：

```
-https -ini:${DataDir}¥Environment¥Config¥Https.ini -nowarn -s:Title -m:Body -a:C:¥archive¥file.log "-eout:c:¥error_cab"
```


6. 変更完了後、[OK]ボタンをクリックします。
7. スコープペインで対象のインスタンスを右クリックし、"監視設定のインポート"を選択します。
8. '[HTTPS 送信の失敗時にリトライを実行する場合](#)' で準備した、"HTTPS再送.cab" を選択して、インポートします。
対象のインスタンスの監視ノード配下に「HTTPS再送」という名称で監視グループが追加され、このグループには監視項目「フォルダー・ファイル監視」および、「HTTPS再送」アクションが含まれています。
 - 表示されない場合は、監視ノードアイコンをクリックし、スコープペインの表示をリフレッシュしてください。
9. 監視グループ「HTTPS再送」の設定を変更する場合は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' を参照してください。
10. スコープペインに表示された監視項目「フォルダー・ファイル監視」を右クリックし、"プロパティ" を選択します。
11. "設定" タブを開き、"フォルダー / ファイル名" フィールドに項番 1 で作成した再送用ファイルの保存フォルダーを指定して、[OK] ボタンをクリックします。
 - 監視項目「フォルダー・ファイル監視」のその他の設定を変更する場合は、'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズ マニュアル' の「フォルダー・ファイル監視」を参照してください。



12. スコープペインに表示された監視項目「フォルダー・ファイル監視」をクリックし、リザルトペインに表示された「HTTPS再送」を右クリックして"プロパティ"を選択します。
13. "設定" タブをクリックし、[補助設定] ボタンをクリックします。
 - 「プログラム名」フィールドには既定値で、"SendRetryHTTPS.bat" と入力されています。この値は変更しないでください。

- 本監視では詳細な設定を後述の補助設定画面で行い、設定された内容は自動的に「引数」フィールドへ反映されます。この画面では「引数」フィールドを変更しないでください。
- [参照] ボタン、[変数の挿入(V)] ボタン、[変数の挿入(I)] ボタンは本設定で使用しません。
- [テスト] ボタンは本設定で使用できません。

HTTPS再送のプロパティ

全般 実行条件 設定

プログラム名(P):
SendRetryHTTPS.bat

参照(B)... 変数の挿入(V)...

引数(R):
-https -ini:\${DataDir}\Environment\Config\Https.ini -deltype:0 -nowarn

変数の挿入(I)... 補助設定(C)...

テスト(T)... \$(Status)などの予約済み変数は使用できません。

OK キャンセル 適用(A)

14. BOMマネージャー画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。

BOM マネージャー

? 補助設定画面を開くには、現在の設定を保存する必要があります。
保存してよろしいですか？

はい(Y) いいえ(N)

15. カスタムアクション設定画面が開きます。

"フォルダー設定" フィールドに項番 1 で作成した再送用ファイルの保存フォルダーを指定して、[OK] ボタンをクリックします。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled 'カスタムアクション設定(BOM-SENDCLI:BOM-SENDCLI:GRP02MON01:ACT01)'. The main content area has a blue header with the text 'HTTPS再送'. Below this, there is a label 'フォルダー設定:' followed by an empty text input field. A note below the input field states: '※一部の記号と、環境依存文字は使用できません。詳細はマニュアルをご確認ください。'. There is a button labeled '元の設定に戻す' (Return to original settings). At the bottom right of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

16. すべての設定が完了した時点で、監視を開始してください。

BOM for Windows Ver.8.0 HTTPS 送受信ユーザズマニュアル

2022年5月9日 初版

2025年5月16日 改訂版

著者・発行者・発行

セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン Ver.8.0.10.1

(C) 2022 SAY Technologies, Inc.